

宗方小太郎日記，大正 11～12 年

大 里 浩 秋

1. はじめに

本所報 No. 37 に宗方小太郎の明治 21 年の日記（但し中国滞在時期のもののみ）を載せ、No. 40 に 22～25 年、No. 41 に 26～29 年（但し 27 年 6 月 27 日から 12 月末までと、28 年 3 月 23 日から 8 月末までを除く）、No. 44 に 30～31 年、No. 46 に 32～33 年、No. 47 に 34～35 年、No. 48 に 36～38 年、No. 49 に 39～40 年、No. 50 に 41～42 年、No. 52 に 43～44 年（但し 43 年の欧米旅行時期を除く）、No. 54 に 45～大正 2 年、No. 55 に 3～4 年、No. 56 に 5～6 年、No. 57 に 7～8 年、No. 58 に 9～10 年の日記を載せた。今号ではその続きとして、大正 11～12 年（但し 12 年は 1 月 15 日まで）の宗方の手書きの日記を活字に起こすとともに、解題を付すことにする。

前回までと同じであるが、お断りすべきことを記す。原文のカタカナは、西洋の固有名詞や外来語を除いてひらがなに改め、漢字の旧字体は新字体に改め、適宜句読点を加えたが、日本人の名前の漢字は原文のままにした。私が付す解題中での原文の扱いも同様である。また、原文で間違いや不足があると判断したところには〔 〕で訂正や追加を試みた。日記の解説と入力作業は、本学中国言語文化修士修了、文学修士の増子直美さんに手伝ってもらった。

2. 大正 11 年 1 月から 12 月までの日記

大正 11（1922）年の日記は、10 年 8 月 19 日から 11 年 12 月末までを一綴じにされたうちの一部である。

前年 9 月に日本から上海に戻ってからはずっと上海に滞在しているが、12 月 31 日に鳥撃仲間と船に乗って浙江省平湖あたりに出かけ、元日と 2 日を猟をして過ごして、3 日早朝に上海に帰着した。上海に滞在して新年を迎えた時は元日領事館に出かけて天皇の「聖影」を拝むのが常であったが、この年はそうしなかったことがわかる。その後も、1 月に 2 度、2 月に 1 度、4 月に 3 度、5 月に 1 度、さらに 7 月に帰国して 11 月に上海に戻ってからも 11 月に 1 度、12 月に 2 度鳥撃に出かけている。出かける場所は、浙江の場合は平湖か海塩のあたりで、いずれも三井洋行の数人と行動を共にしており、近場の場合は上海北郊外の江湾あたりが多かったようである。数年来体調を崩して医者に通うことが増えてなお鳥撃に執心している様子が分かる。

普段においては、相変わらず各種の日本人と盛んに会っている。とくに海軍関係者とは、軍艦が上海に着くたびに街中で会うだけでなく、軍艦を訪ねることもあって忙しく過ごしたことがうかがえる。他には、前年までと同様東方通信社、東亜同文書院、上海日報社に出かけてそれぞれの関係者と会っており、時折上海に顔を出す人物にもまめに会っている。例えば、大谷光瑞は以前から交流があったが、こ

の年は3月に数回会っていて、そのうちの11日には大谷が新築した無憂園の落成披露宴に招かれて出席し、5月から6月にも3度会っている。また、中国人については、姚文藻と時折会っている他、鄭孝胥には以前に増して会い、肅親王が4月に亡くなった際は弔辞を出し、6月その息子が訪ねてきて遺品を贈るなど、旧清朝関係者との関係が続いていることをうかがわせる動きを示している。

中国の現状については、日記には奉天軍と直隸軍の戦闘開始とすぐ後の奉天軍の大敗を記すのみであるが、彼の本業の一つである海軍々令部へのこの年の報告でも、後述の一覧のごとく、もっぱら中国内の軍閥の対立の動きを紹介している。そのうち第612号報告は、3月24日に会った徐樹錚との談話記録であるが、それによると、時局についての宗方の見解は、「混乱紛糾其極に達し、愈々鬧して愈々紊れ、統一の至難なるは要するに中心人物の欠乏に因る。……今や奉天、安徽、西南の大合同成り、直隸派の包囲を策するは計の得たる者なれども、直派倒れて後に三派の間に忽ち内訌を生じ、此の紛乱状態は容易に鎮定せざるべし」というものであり、統一の見通しを立てようがないとする現状理解を吐露しているのである。

7月27日に長崎に着くと直ちに東京に移動して、その後11月上旬にまた上海に戻るまでは東京にいて、海軍々令部、外務省、東亜同文会、東方通信社に顔を出し、かつ友人たちと会っているのは帰国中のいつもの行動であるが、この時故郷熊本に行かなかったのはかつてないことであった。

この年の日記を以上のように見てきて感じるのは、上海において何度か体の不調を感じる場面がありながらも（帰国中にはそのような記述はないが）、それをものともせず精力的に動き回っている姿である。知人の病氣を見舞ったり死去の報に何度か接することがあっても、宗方自身の体をいたわることには思い至らなかったのであろうか。

ここで、この年に宗方が書いた海軍あての報告の号数・タイトルと日付を、『宗方小太郎文書』（以下『文書』と略称）のそれと対照しつつ日記中から拾い出す。

1月11日、第606号「梁士詒内閣に対する直隸派の反感」。1月26日、第607号「梁士詒の請暇」。2月7日、第608号「奉直両派の対立」。第609号「贖路運動の流行」。2月20日、第610号「支那政局雑俎」。3月10日、第611号「支那政局の大勢」。3月25日、第612号「徐樹錚との問答」。3月30日、第613号「現今の形勢と四大勢力の裏面」。4月17日、第614号「奉直間形勢の切迫」。4月21日、第615号「呉佩孚、康有為の提携」。4月26日、第616号「奉直の対峙と西南の形勢」。5月6日、第617号「奉天軍の敗戦と将来の改局」。5月23日、第618号「支那政局の潰裂」。6月2日、第619号「現今の政局と旧国会恢復の風潮」。6月7日、第620号「徐世昌の退位と時局の関係」。6月10日、第621号「黎元洪の出处と政局の関係」。6月19日、第622号「孫文の豪語」。6月30日、第623号「支那政局概観」。7月12日、第624号「政局の整頓」。11月23日、第625号「支那政局の大勢」、上海社会科学院歴史研究所蔵。11月29日、第626号「北京の政争と呉佩孚の軟化」。12月8日、第627号「北京政局の混乱」。

大正十一年

正月一日 半晴。黎明東天を遥拝す。朝一行と雑煮を喫しシャンパンの杯を挙て新禧を祝し、七時半獵装、鳥橋の根拠を發し午前雉一羽を獲て土人に盗み去られ、晌午帰船。午時船を高橋に移し上陸、一羽雉子を獲たるのみ。

正月二日 微雨。朝船を転塘橋に移す。七時上陸、獲る所無し。午後淡水に移る。雉子一羽を獲て帰船。六時帰途に就く。

正月三日 半晴。前三時上海着。七時一行に別れ帰寓。山成、波多来訪。内人の信並に内外知人の年賀

状数百通に接す。夜大谷来訪。

正月四日 半晴。東京宅に六百員、武藤巖男翁記念品費十員を森崎に郵送す。通信社、北岡、領事館、日報社、秋田、友野を歴訪賀正。浅井孝次郎来訪。

正月五日 陰。午前北岡少佐来訪。午後波多と軍艦明石に至り司令官以下を訪ひ賀正。名和、山下両大將の信至る。夜佐々布を訪ふ。

正月六日 快晴。秋田来訪。林出に致書す。

正月七日 晴。姚文藻来訪。東京宅に鮭筋子二缶、蓮子糖一箱を小包にて送る。内人に信片を發す。海軍に通信を發す。

正月八日 晴。日曜日。午後辻、波多、西本、山口、浅井孝次郎を訪ひ、去て北四川路に小林少佐、田中副領事、副島、坂田、菊池を歴訪して帰る。余洵来訪。

正月九日 快晴。井手友喜、西本省三来訪。午後理髮、通信社に至り池田の帰れる〔を〕聞き往て之を訪ふ。土産の柿、高野豆腐を贈らる。浅井孝次郎来訪。

正月十日 晴。波多来訪。

正月十一日 半晴。午前上田仙太郎来訪、本日欧洲より着せりと云ふ。正午船津領事の案内にて上田と倶楽部に至り、落合伊太利駐劄大使夫妻、其他領事館員一同と中食し、散後上田同伴上海日報社に島田、井手を訪ふて帰る。内人の信至る。海軍に報告を發す。六時船津官邸の晩餐に赴く。落合大使夫妻、上田仙太郎、賀茂丸船長同坐たり。十時散ず。途一行に告別して寓に帰り、報告を浄写して深更に至る。

正月十二日 雨。林出、石崎に信片を發す。午後山成来訪。

正月十三日 雨。海軍に通信を發す。波多来訪。大谷、横山の室に至り小談。

正月十四日 雨。土曜日。是夕より三井一行と出獵せんとす。午後獵装を治す。松倉の信至る。森茂に詩信を發す。四時半税関埠頭に至り上船。野平、佐々布、米田、中村、立川、児玉同行たり。五時半開船。

正月十五日 雨。日曜日。未明平湖着。八時船を北王橋に移し上陸、打獵。雉子一羽を獲、晌午帰船。衣帽尽く沾ふ。午後雨霰を交ゆ。諸人上陸、余、立川と船に留る。六時開船。夜半風大船揺。

正月十六日 雨。前三時上海着、七時帰寓。高島醇の信至。之に復す。迎英輔、波多、横山来訪。

正月十七日 大雪紛飛。午後日報社より扶桑館、豊陽館に至り迎、橋を訪ふ、皆不在。

正月十八日 雪、寒甚、初て結水を見る。姚文藻を訪ふ。午後池田桃川、橋三郎来訪。晚井手友喜の処に至り島田と三人雉子を会食す。

正月十九日 半晴。内人の信至る。之に復す。南郷副官に致書す。軍令部より一、二、三月分手当を送り来る。午後山成来訪。

正月廿日 晴、寒氣甚嚴。海軍、並に伊集院大使に通信を發す。浅井孝次郎来訪。午後理髮。夜姚文藻、島田来訪。

正月廿一日 晴、寒甚。午前日報社に至る。夜横山を訪ふ。迎来訪。

正月廿二日 雨。池田桃川、山成来訪。井手の処に中食す。

正月廿三日 雨。林出、安保中將の信片至る。九州日々社山田に通信を發す。夜佐々布来訪。

正月廿四日 陰。大谷、佐々布来訪。東京宅に發信す。晚波多を訪ふ。

正月廿五日 陰。午後通信社に至る。鳥居素川、山下邦三の信並に内人の信書に接す。鳥居に復す。

正月廿六日 雨。井手友喜来訪。東京本庄大佐の信至る。之に復す。井手に信片を發す。報告を作る。

正月廿七日 積陰。海軍に報告を發す。是日より浙江に出獵せんとす。獵装を治す。波多、朱輔基来訪。午後五時税関埠頭に至り上船、六時開船。一行は野平、柳田、石崎、米田、中村、余の六人也。是夜陰曆除夕たり。

正月廿八日 雨。是日旧暦正月元日たり。朝北王橋に達し雨を冒して上陸。泥滑にして歩行甚難。午前雉子一、鵜一を獲。正午白苧の舟次に中食。午後再上陸、海塩北門外の慶豊橋の舟次に至る。夜舟を和睦橋に移す。雨雹交下。

正月廿九日 雨少時にして歇む。八時上陸。午後大朱家橋一帯を獵す。鶉一羽を獲たるのみ。夜船を高橋に移す。

正月三十日 半晴。午前白苧里に向ふ。雉子五射して僅に一羽を獲たるのみ。午後四顧橋より淡水橋の間に行動す。獲る所無し。晩淡水橋を發し帰途に就く。

正月三十一日 半晴。朝上海着、七時帰寓。午後山成來訪。夜大谷は空來訪。

二月一日 微雪。理髮、井手、北岡を訪ふ。

二月二日 雨。午前波多、井手を訪ふ。内人、丈夫に発信す。船津よりの案内状に接す。小西伊十、林出の信至る。之に復す。夜横山の室にて金子と三人会談。

二月三日 半晴。午前浅井孝次郎、朱輔基、辻來訪。熊本紫藤猛の訃至る。弔詞を發す。午後六時井手宅に島田と三人会食す。終て佐々布宅を訪ひ、十時帰。

二月四日 晴。午後森茂來訪。夜大谷、鈴木格三郎、石黒、波多來訪。

二月五日 晴。日曜日。午前北岡少佐の病を問ひ、正午帰る。午後吉田司令官來訪。六時より波多列と船津領事邸の宴に赴く。同坐二十余人、天津西村博亦來会。十時散。

二月六日 雨。鈴木大尉來訪。増田高頼の信至る。之に復す。

二月七日 雨。海軍に報告を發す。井手來訪。午後笹原篤介來訪。六時半三馬路禪悦齋の素菜館に至り、南満医学堂久保田博士、浅草病院青江政太郎、三菱支店の秋山、船津、太田、波多、熊谷龍彦等と会食。散後根津同文書院長の帰国を山城丸に送て帰る。佐原來訪。

二月八日 快晴。同文書院村本傳藏來訪。夜横山六輔、金子四郎來訪。

二月九日 快晴、和暖。山成來訪。夜西本を訪ふ。

二月十日 快晴、暖如晚春。午前船津、財津、辻を訪ふ。午後軍艦明石に吉田司令官を訪ひ、五時帰る。八田厚志の信至る。夜鈴木格三郎を訪ふ。夜雷雨。村山正隆の詩信至。

二月十一日 晴。紀元節。広東八田厚志に復書す。午後同文書院植野武雄、岡野市郎、山成來訪。理髮、佐原を訪ふ。

二月十二日 晴。日曜日。前九時より日清の小蒸気船にて山成並に日清社員三名と龍華に獵し、四時半帰。獲る所無し。六時より船津領事の宴に其官邸に赴く。日支兩國の新聞記者三十余名來会。十時席散ず。

二月十三日 晴。香月梅外來訪、留て中食を共にす。午後山成來訪。六時東方社北岡を訪ひ、去て佐原宅に抵り香月、山成、佐原と野猪を会食す。味甚だ美ならず。蓋し立春後に属するを以て也。十時散ず。木幡、中畑の信至る。之に復す。船津の案内状至る。

二月十四日 雨。午後小西伊十の信至る。之に復す。五時余洵來訪、共に出て九華堂に至り冊子、手巻の袈装を命じ、去て船津官邸の宴に赴く。香月、土井、佐原、大谷、篠田、青木等同坐たり。散後白岩、河野、橘、實相寺に合作信片を發す。十時辞帰。

二月十五日 微雨。池田、荒牧藤三來訪。松倉に信片を發す。村田孜郎來訪。午後三菱秋山昱禧來訪。出て香月を扶桑館に訪ふ。六時香月、大谷と佐原宅の晩餐に赴く。船津來会。十時散。内人、丈夫の信至。

二月十六日 快晴。内人、丈夫に復し、別に亀雄夫婦に致書す。井手、山成來訪。夜金子四郎と談ず。後頭部神経痛を覚ゆ。香月來訪、本日母堂死去の電に接せしを以て明日帰国の事を告ぐ。

二月十七日 半晴。午後大和正夫、荒牧來訪。出て香月を訪ひ奠儀を贈り、日報社に小談帰る。晩副島、横山、波多夫婦、鈴木大尉夫人來訪。九時半香月を筑後丸に、鈴木夫人を八幡丸に送り、十一時

帰る。

二月十八日 晴。晩島田来訪。

二月十九日 陰。日曜日。午後佐原，日報社を訪ふ。大雨。

二月廿日 快晴。菅村夫人，白岩子雲の信至る。香月に平岡の信を郵送す。平岡，迎に信片を發す。報告を作る。塩島中佐，中村芦洲来訪。

二月廿一日 微雨。白岩に復書し，海軍に報告を發す。日報社より豊陽館に至り塩島中佐，北岡少佐を訪ひ，領事館に船津を訪問し，五時帰る。夜波多来訪。

二月廿二日 陰。午後佐々布，塩島中佐来訪。菅村の信至る。井手友喜来訪。井手三郎，菅村三之の信至る。

二月廿三日 半晴。十時半豊陽館に至り塩島，北岡両武官と同車射の場に至り，軍艦宇治兵員の射的に加入し三百ヤード距離にて十五射十二中す。正午終はり三馬路美麗川菜館に日報社の午喰に赴く。村上，太田，波多，島田，井手，外数人たり。二時散ず。夜横山来訪。夜半雷雨。

二月廿四日 陰。理髮。通信社，上海銀行に至り五時帰る。姚元超来訪。姚文藻の長子にして國務院諮議たり。不相見二十八年。晩に及で去る。

二月廿五日 陰。夜金子四郎と談ず。松倉善家の信並びに安東義喬の請帖至。

二月廿六日 雪。前九時より波多と大阪商船の福建丸に至り，清室の太傅陳宝琛の福州に帰るを送る。李經邁，鄭孝胥父子亦行を送りて船に在り。十時握別して帰る。伊集院俊に信片を發す。小山清次来訪。夜佐々布を訪ふ。雪。十時半帰。

二月廿七日 朝微雪。高木謙吉来訪，菅村より托送の山芋を持参す。高木は上野寅彦の二男なりと云ふ。菅村三之並に其夫人に礼状を發す。午後三菱に秋山昱禧を訪ひ，帰途日報社に小談。夜横山の室に談ず。内人の信至る。

二月廿八日 半晴。東京宅に返信し印形を郵送す。

三月一日 陰。午前波多来訪。午後佐原，岡田有民，横山来訪。五時より横山と安東義喬の招宴に哈同花園に赴く。同坐は大谷光瑞，岑春煊，殷汝麗，小林，北岡両少佐，野平，米里，佐原，首藤，柳田，森等二十余人。十時散ず。荻野芳蔵来訪。内田友義，平岡，今井，菅村逸夫，鈴木大尉夫人，香月，木幡，上田仙太郎，林市蔵，鳥居素川等の信に接す。

三月二日 快晴。東京宅に送金し，熊本内田友義に致書す。通信社並に岡田，辻を訪ふ。夜安東義喬を訪ふ。

三月三日 雨。終日在寓。山成来訪。

三月四日 陰。晩吉田中將の招宴に倶楽部に赴く。余を主賓とし同坐は天野明石艦長，久保田，椎名両参謀，塩島宇治艦長，佐原，波多，西本，池田等也。九時散ず。船津の案内状至る。

三月五日 雨。日曜日。理髮。余穀民に致書す。平岡小太郎の信至る。之に復す。余穀民，大谷，横山来訪。海軍，高森，長江，篠寄の信，並に成田より其母堂の訃至。

三月六日 雨。長江，篠寄に復し，成田に弔詞と奠儀を送る。内人に致書，成田に致すの香典を封送す。船津領事を訪ひ，正午瀬川浅之進を襄陽丸に迎ふ。田鍋安之助の信至る。大谷光瑞師より無憂園落成披露の案内状至る。村田孜郎来訪。六時より船津領事の招宴に其官邸に赴く。瀬川漢口総領事，吉田茂，秋山昱禧，吉田司令官，天野大佐，北岡少佐，其他領事館員也。十一時散。

三月七日 晴。学習院教授文学博士小柳司氣太，北京中島大佐の紹介にて来訪。林出賢次郎に致書。嗣子の夭折を弔す。田鍋安之助に復書す。海軍に通信を發す。大島繁来訪。夜井手友喜の病を問ふ。

三月八日 半晴。高尾亨に致書す。午後佐々布来訪。夜小柳司氣太を訪ふ。

三月九日 陰。村田孜郎来訪。午後湯谷書記生子息の葬儀に東本願寺に列す。井手三郎に致書。夜大谷を訪ふ，不在。横山来談。

三月十日 半晴。報告を作る。七時義勇隊の賞品授与式に倶楽部に列し、十時半帰。

三月十一日 快晴。海軍に報告を發す。午後四時半天野大佐、北岡少佐と同車星架坡路十四号大谷光瑞師新築無憂園の落成披露宴に列す。來客吉田司令官、船津領事以下五十人許。支那食の饗有り。園の境域一万坪、池を繞らし丘を造り結構壮大、室内陳設亦極て完美、上海に於ける邦人邸宅の巨擘なり。九時散ず。高橋謙、小西伊十の信至。

三月十二日 晴。日曜日。高橋、小西に復書す。浅井孝次郎來訪。東京田鍋、白岩、熊本井手に致書す。午後姚文藻、鄭孝胥父子、村上宅、船津領事を歴訪して帰る。夜荻野芳藏を訪ふ。

三月十三日 晴。迎英輔來訪。午後軍艦明石に吉田司令官以下幕僚に面し、四時帰。夜姚文超、小柳博士、金子四郎來訪。

三月十四日 晴、暖氣頓に催す。波多、佐々布來訪。夜金子と倶楽部に至り吉田奈良丸の講談を聴く。

三月十五日 晴。午後理髮、船津、波多を訪ふ。夜大谷、横山を訪ひ、十一時帰。近重眞澄、小西伊十、香月梅外の信至る。

三月十六日 雨。内人の信至る。近重博士、香月、小西に復書す。画家宅野田夫來訪。夜波多來訪。

三月十七日 晴。午後日報社に至る。

三月十八日 晴。午後倶楽部に至り宅野田夫の作画の陳列を観る。波多、島田に小談、帰る。晩金子四郎と演舞場に奈良丸の浪華節を聴く。

三月十九日 快晴。日曜日。午前木村申丙來訪、留て中食す。午後天津駐屯軍司令官鈴木一馬少將來訪。午後高木謙吉、山成、佐々布、坂田を歴訪す。上野寅彦に信片を發す。同文会、伊集院俊の信、並に狩野、佐野、鳥居、井手、奴留湯等連名の信片に接す。

三月廿日 晴。午前鈴木司令官を訪ひ、去て済生堂に至り、晌午帰る。川口市之助來訪せりと云ふ。午後白倉清一郎來訪。岡より月田蒙壘詩集を送り来る。岡に復書す。波多來訪。七時坂田長平の送別会に小有天に臨む。島田、西本、栖木野、田上、馬場、三沢、高橋等同座たり。九時散ず。帰途西本と神州日報館に余洵を訪ひ、共に九華堂に至り袂装を命ぜし巻物、帖冊を受取て帰る。袂資三十金。

三月廿一日 晴。伊集院俊に信片を送る。晩横山、岡田有民來訪。

三月廿二日 快晴。長崎赤星典太に其嫡子の死去を弔す。午後稻香村に至り落花生、肉鬆を購ひ、六時波多を訪ひ其帰京に托し缶詰、反物を留守宅に送る。七時小林少佐の宴に倶楽部に列す。鈴木大尉帰朝、奈良大尉來任に付き送別と紹介を兼、領事以下三十人を招待せる者也。九時散。

三月廿三日 晴、風大。東京宅に致書す。午後川口市之助、岡田有民、上杉某來訪。林出、海軍、山内清人の信至る。余洵來訪。林出、山内に復書す。高尾亨の信至る。夜安東義喬、波多來訪。

三月廿四日 快晴。午前川口、岡田、船津を訪ふ。内人の信至る。之に復す。夜岡田有民と徐樹錚を訪ひ時局を談じ、十時帰る。

三月廿五日 晴。九時大谷光瑞、波多、鈴木大尉の帰国を熊野丸に送り、帰途川口市之助、北岡少佐、椎名參謀を豊陽館に訪ふ。海軍に報告を發す。晩島田を訪ひ共に倶楽部に至り、坂田長平、西本等と晩餐す。

三月廿六日 快晴。日曜日。午前井手友喜の病を篠寄医院に問ふ。午後横山、山成來訪、理髮。

三月廿七日 半晴。通信社、上海銀行、財津に至り、正午帰る。坂田長平夫婦來訪、明日天津に転任すと云ふ。井手、高橋謙、小西、紫藤の信至る。午後石野哲弘來訪。小西に復書す。八田の信至る。余洵來訪、共に九華堂に至り巻軸の袂装を托して帰る。

三月廿八日 晴。十時坂田長平を大坂商船会社の湖北丸に送る。出口午後に延びし為め未乗船、名刺を留て帰る。午後石田來訪。三時船津官舎アットホームに出席す。馬尼刺より寄港せる田中陸軍大將を主賓とし米国人を主とし邦人若干を招待せる者なり。散後鄭孝胥を訪ひ岡より托されし蒙壘詩集を渡し、去て村上宅に至る、不在。鄭宅の桜花数十株盛開。

三月廿九日 陰。午前佐原を訪ふ。上野寅彦、林出の信至る。

三月三十日 雨。近重眞澄の信至る。大谷来訪。熊本長野忠次来訪。報告を作る。

三月三十一日 晴。海軍に報告を發し副本を外務省高尾に郵致す。佐世保伊集院の信至る。夜佐々布を訪ふ。

四月一日 晴。午後倶楽部に至り日支美術展覧会を観る。両国人の書画多数を陳列す。井手友喜の病を篠寄医院に問ひ、帰途波多宅を訪ふ。夜横山来訪。

四月二日 快晴。日曜日。午後三井野平の園遊会に金神父路の邸に赴く。桜花盛開、來賓満園。四時半帰る。

四月三日 陰。神武天皇祭。川口市之助来訪、留て中食を与にす。午後長野忠次を豊陽館に訪ひ、帰途倶楽部に美術展覧会を見る。帰途西本宅を訪ふ。眞島在焉。暢談久之而帰。松岡玄雄来訪せりと云ふ。成田の信至。

四月四日 陰。午後船津、松岡を訪ふ。松岡より海鼠腸二瓶を送り来る。武田、島田来訪。大谷来別、今夕の船にて帰国すと云ふ。横山来訪。

四月五日 陰。是日清明節たり。大島来訪、郵船会社に転任すと云ふ。午後理髮、松岡玄雄を訪ふ。夜金子四郎来訪。小柳司氣太の信片至。

四月六日 雨。荒賀直順に信片を發す。夜佐々布を訪ふ。

四月七日 晴。海軍に通信を發す。六時日支聯合美術展覧会主催者石野哲弘の招宴に倶楽部に赴く。來賓日支両国人七八十人。九時帰。雨。

四月八日 陰。

四月九日 快晴。日曜。前八時半より佐々布、米田等と北郊に獵す。獲る所無し。菜黄麦緑、春光可人。午後三時半帰る。五時扶桑館に画家関谷雲崖を訪ふ。内人及び南郷大佐の紹介有り。六時半北岡少佐、小林少佐、奈良大尉の招宴に倶楽部に列し、九時半帰。内人、坂田長平、井手三郎、米内山庸夫の信、並に高橋正二夫人の訃に接す。

四月十日 微雨。内人に信片を發す。高橋に弔詞を發す。海軍並に香月の信至る。井出大佐に致書す。西本来訪。

四月十一日 晴。午前北岡、川口、東方社に抵り、正午帰る。午後小林少佐、菊池、武田を訪ふ。夜上杉外一名学生、並に横山来訪。旅順肅親王薨去の訃報至る。

四月十二日 陰。早朝横山と公園に散策す。午前北岡少佐来訪。小西伊十、高橋謙、町田健次郎の信至。辻源太郎来訪。河口虎夫の信至る。之に復す。

四月十三日 積陰。南郷大佐に致書、東京宅に送金す。関谷雲崖を扶桑館に訪ひ、去て日報社に井手と小談、帰る。関谷、高須芝山、岸浪静山、久保田翠岳来訪。各自作の小品画を贈る。今夕より普陀に赴くと云ふ。肅親王薨去の弔詞を小平總治に發す。夜波多宅を訪ふ。

四月十四日 晴。八時半佐々布を訪ひ、共に出て江湾附近に獵し鷓鴣三羽を獲て、四時帰る。

四月十五日 快晴。午前川口市之助、高木謙吉夫婦、横山、土井隅田艦長来訪。午後軍艦明石に吉田司令官、山本副官を訪ひ、四時帰る。晩佐々布を訪ふ。

四月十六日 快晴。日曜日。八時半より佐々布と江湾附近に獵す。獲る所無し。三時佐々布宅に帰り吃茶、四時帰寓。六時再至佐々布宅晩食、九時帰。

四月十七日 快晴。余洵に致書す。報告を作る。夜横山、金子と談ず。

四月十八日 晴。報告を海軍に發送す。海軍より四月至六月手当を送り来る。領収証を發す。浅田久三郎に復書す。副島綱雄、井手友喜来訪。午後天野明石艦長、対馬艦長岸科政雄、北岡少佐、山本副官、倉賀野参謀来訪。対馬は十六日新来、明石は二十二日出港帰国すと云ふ。今関寿麿、松岡玄雄、石野哲弘来訪。

四月十九日 晴。午後白岩、橘を熊野丸に迎へ、川口市之助、北岡少佐の処に至り、四時帰る。晚杏花楼の熊本出身小学校教員の小集に列す。石井、谷口、石田、坂田 等七人なり。坂田八新は熊本より着任せし者也。散後時報館に狄平を、神州報館に余洵を訪ひ帰る。松岡玄雄来訪。浅田久三郎の信至。

四月廿日 微雨。午前軍艦対馬に吉田司令官、岸科政雄（艦長）、倉賀野参謀を訪ひ、晌午帰る。午後佐伯好郎、今関壽麿、外二学生来訪。二時軍艦明石に天野艦長、白木副長を訪ひ送別、明後日出港帰国するを以て也。長野忠次来訪。波多博、八田厚志の信至る。夜長野を豊陽館に訪ふ。今夕漢口に赴くを以て上游の二三知人に紹介す。

四月廿一日 晴。午前陳宝琛、鄭垂来訪。陳翁は昨日福州より着、明日北上すと云ふ。海軍に報告を發し、別に外務省高尾に一通を送る。広東八田厚志に復す。日報社に北岡を訪ふ。夜金子、宮本、安東、白岩来訪、深更去る。

四月廿二日 陰晴無常。前七時豊陽館に至り吉田司令官、北岡、久保田兩武官と同車大坂商船福建丸に至り陳宝琛翁の北帰を送る。鄭孝胥、李經邁、張元濟等に会す。八時握別して帰る。午後近重眞澄博士来着会談、歐洲に赴く者也。副島来訪。岡本源次、鳥居合作の信片河内より至る。井出大佐の信に接す。辻源太郎来訪。金子四郎、横山六輔と芦の家に至り山芋汁を会食。帰途波多宅を訪ふ。

四月廿三日 雨。近重博士、式正次来訪。是日三井一行と出獵の約有りしも風邪の気味有るを以て辞す。波多を八幡丸に迎ふ。午後海軍に通信を發す。古澤、波多、辻来訪。五時近重の歐洲行を送り、帰途関谷、白岩、橘を訪ふ、不在。村上義温の処に暢談、六時帰る。夜今関天彭来訪。

四月廿四日 雨。午後郵便局、日報社、通信社より扶桑館に至り、四時関谷一行を伴ひ時報館に狄平を訪ふ、不在。刺を留て帰る。夜横山来訪。

四月廿五日 晴。理髮、北岡を訪ふ。午後奈良大尉、川口市之助来訪。晚波多宅に至り社員一同と会食す。

四月廿六日 晴。西本来訪。午後報告を作る。余洵来訪。

四月廿七日 晴。午前関谷を訪ひ、去て福民病院に古賀の病を訪ひ、晌午帰る。辻来訪。岡幸七郎の信至。午後海軍に報告を發す。外務省に同文報告を出す。北岡を訪ふ。晚佐々布来訪。松倉、鈴木大尉、岡幸七郎の信至。

四月廿八日 微雨。正午橘三郎の中食に月廼家花園に赴く。白岩龍平、田中啓次郎、森清治同坐たり。三時散ず。帰途通信社、川口市之助を訪ふ。川口来訪、海苔一缶を贈る。今夕上船帰国すと云ふ。松倉、岡本源次の信片、高橋正二、並に肅親王の公子憲章の信至る。今関天彭来訪。松倉に復す。夜今関、佐伯好郎を訪ふ。

四月廿九日 雨。田鍋虎四郎、田鍋安之助の紹介にて来訪、留て中食す。喜多又蔵、白岩龍平の案内状至。東京宅に發信す。夜今関来訪。島田を訪ふ。是日奉直兩軍長辛店、馬廐の両地に開戦す。

四月三十日 晴。日曜日。前八時半税関埠頭に至り三井の汽艇に乗り野平、佐々布、中村と旧虬、乗沽に獵す。獲る所無し。五時帰。奈良大尉来訪、六時半共に出て喜多又蔵、白岩龍平の招宴に倶楽部に出席。九時帰。サマラン菅村逸夫の信至。八田厚志の信至。

五月一日 陰、午後雨。九時竹下中将を吉野丸に迎ふ。歐洲よりの帰途也。正午吉田司令官主催の午餐会に六三園に赴く。竹下中将一行、船津夫婦、海軍将校主客二十人許。三時散ず。今関天彭、大村得太郎来訪。内人、並に丈夫の信至る。六時半竹下勇氏の招宴に一品行〔香〕に赴く。同坐は吉田司令官、並に幕僚全部と竹下中将一行数人なり。

五月二日 陰。竹下中将に瓦硯一方を贈る。十一時竹下を吉野丸に送る。安全剃刀一篋を贈らる。十二時握別して帰る。北岡、土居、波多と牛門にて中食す。夜今関を訪ふ。田中耕太郎の信至る。副島、横山来訪。

- 五月三日 晴。櫻木俊一來訪。中食後佐々布，中村と北郊に猟し鷗四羽を獲，六時半帰。夜金子來訪。
- 五月四日 微雨。午後通信社，日報社に至る。今関來訪。晚白岩來訪，留て会食す。
- 五月五日 陰。理髮，十時井手三郎を筑後丸に迎ふ。昨日奉直の戦，長辛店に於て奉天軍大敗潰乱して天津方面に向て返却せりと云ふ。午後柏原文太郎來訪。竹内勝太來訪。晚井手を訪ひ，去て柏原を熊野丸に送る。
- 五月六日 陰。副島，辻，井手來訪。中林郵便局長の案内状至る。午後報告を作る。晚報告を發し，白岩，橘を訪ふ，不在。兩人今夕江西に赴くと云ふ。吉田司令官に三希堂墨宝一帙を贈る。
- 五月七日 晴。日曜。八時より北郊に猟し鷗二羽を獲，一時帰る。金子來訪。夜余洵來訪。
- 五月八日 晴。小西伊十の信至。今関，石野來訪。六時半より副島綱雄宅の招きに赴く。同座は吉田中将，岸科大佐，山本副官，北岡，小林両少佐，首藤，大谷師，野平等なり。十時散ず。
- 五月九日 半晴。今関來訪。広東八田厚志の信至。六時波多を訪ひ，七時中村郵便局長の招宴に其宅に赴く。吉田司令官，岸科対馬艦長，北岡，山本両少佐，秋山豊禧夫婦，小林少佐夫婦同坐たり。十時散。
- 五月十日 晴。今関來訪。午後波多野清長，横山來訪。一時半より北郊に猟す。鷗二羽を獲，五時帰。中村芦洲來訪。波多野に致書，興信録に出名を辞す。余洵來訪。
- 五月十一日 晴。辻，小栗秋裕，波多，森岡正平，岡田有民來訪。正午船津の招きにて俱樂部に至り中食す。同坐は鈴木代議士，村上義温，森岡，西本，波多，以下領事館員なり。三時より森岡，波多等と自働〔動〕車にて仏国公園に遊び，四時森岡の帰国を税関埠頭に送り，帰途北岡の処に小談。是日心氣不舒，夜発熱三十八度四分。長沙関谷雲崖の信至。田上二雄來訪。荒賀直順の電報至る，十四日神戸発にて渡来すと云ふ。夜半病苦甚しく安睡する能はず。
- 五月十二日 晴。午前今関天彭來別，今日啓程北京に帰ると云ふ。終日静養。午後余洵來訪。加藤壮太郎の信至る。八田厚志の報告に接す。
- 五月十三日 晴。理髮，秋田医士の診を受く。血压依然二百を示し，検尿卵白有り。夜姚文超來訪。
- 五月十四日 晴。日曜日。中食後六三園の義勇隊慰労会に列席。三時散ず。井手と日報社に帰り，四時半山城丸に艦隊新司令官小林研蔵少将を迎へて帰る。
- 五月十五日 雨。午前小林司令官を豊陽館に訪ひ，帰途秋田の診察を受く。岡，田辺寛忠の信至。取引所島徳蔵の案内状至。七時島の招宴に俱樂部に赴く。來賓者百余人。九時散ず。席上岡松忠利に邂逅す。昔年欧米同游の人なり。
- 五月十六日 半晴。海軍に通信を發し，外に岡幸七郎，八田厚志に復書す。辻來訪。午前新旧司令官を豊陽館に訪ひ小談，去て北岡少佐に抵り，正午帰。加藤壮太郎に復書す。余洵來訪。六時半より吉田中将，小林少佐の招宴に俱樂部に出席，九時半散ず。夜半背痛安眠する能はず。
- 五月十七日 晴。午前秋田医士の診察を受く。晌午荒賀到着を聞き東和に帰り，荒賀並に漢口同仁病院長石川武雄博士並に技師佐波甫に面す。午後荒賀，石川，櫻木俊一，井手兄弟，村田孜郎，戸田義勇，余洵，迎英輔等來訪。川口市之助，田尻辰彦の信片並に木下賢良の訃に接す。井手，荒賀と出て市中を散歩し，日報社に小談帰る。田上二雄來訪。
- 五月十八日 半晴。朝荒賀來談。田辺寛忠に復書し，木下の遺族に弔詞を發す。鈴木信弘來訪。故中久喜信周の弟也。正午櫻木の午餐に俱樂部に出席す。船津，鈴木，荒賀，石川等同坐たり。二時散ず。吉田，小林新旧司令官來訪，六時半新旧司令官の送迎宴に俱樂部に出席，主賓百五十人。九時散。
- 五月十九日 晴。荒賀來談。正午井手來訪。荒賀と三人出て四馬路雅叙園に至り会食，終て井手と吉田中将を豊陽館に訪ふ。晚荒賀の室に談ず。十時奈良大尉來訪，共に出て熊野丸に吉田前司令官を送りて握別し，襄陽丸に荒賀直順，瀬川浅之進の漢口行を送り，十二時帰る。
- 五月廿日 陰。田川小六來訪。午後辻と姚文藻を訪ふ，不在。井手を訪ひ四時帰。森岡正平，弥富弘濟

の信至る。横山来談。

五月廿一日 晴。日曜日。金子来訪。午後秋田に至り、去て井手を誘ひ彌富の宅に至り其自作の苺を啖ふ。島田亦来会。寛話時を移し、夕刻井手宅に帰り鰻を会食、九時辞帰。途中西本の病を問ふ。有馬長太郎、山内来訪。

五月廿二日 陰。午前姚文藻来訪。午後佐原、土居隅田艦長来訪。

〔五月廿三日〕 彌富に信片を發す。午後篠崎医院、通信社、日報社に至る。奈良来訪。是日理髮。

五月廿四日 陰。海軍に報告を發す。西本来訪。午後北岡、波多を訪ふ。

五月廿五日 雨、内人並に丈夫に致書。東京宅に金三百員を郵送す。日報社を訪ひ四時帰。余洵来訪。

五月廿六日 積陰。午後白岩を訪ふ、不在。通信社、佐原に抵り、四時帰。

五月廿七日 晴。午後篠崎医院より軍艦対馬のアットホームに出席す。是〔日〕日本海々戦海軍記念日也。七時帰。夜波多を訪ふ。

五月廿八日 微雨。午前奈良大尉と軍艦隅田を楊樹浦に訪ひ、土居艦長に告別す。明日長沙に遡江するを以てなり。六時より菊池豊吉宅の晩餐に赴く。同坐は小林艦隊司令官、倉賀野參謀、鳥羽艦長等也。十時散ず。

五月廿九日 陰。山本信次郎、林出賢次郎の信片至。午後波多、井手、北岡、鈴木清兩少佐来訪。鈴木は鳥羽艦長として新に着任せる者也。長崎市長代橋寄徹、並に三菱秋山昱禧の案内状至る。六時井手、西本、波多と白岩を新月に餞し、九時帰。

五月三十日 陰。白岩の午餐に六三亭に赴く。船津、井手、佐原、米里、森同坐たり。二時散ず。姚文藻来訪。山内崑、荒賀直順の信至。七時橋岡徹の招宴にアスターハウスに出席す。日支兩國来賓八十余人。散後白岩龍平の帰国を山城丸に送て帰る。

五月三十一日 晴。是日陰曆端午節。北京山内崑に復書す。午後波多と大谷光瑞師を訪ひ、去て同文書院に根津、遠藤保雄、山田岳陽、眞島、青木等を訪ひ、七時帰。

六月一日 晴。理髮。篠崎医院より通信社に至り、正午帰る。午後関谷雲崖以下三画家来訪。六時半より波多、村田、太田と三菱秋山昱禧宅の招宴に赴く。大谷光瑞師、井手、佐原、小山、西本列同坐。十時散。

六月二日 晴。報告を作り海軍と外務省に發送す。五時上杉学生来訪、之を伴ひ同春樓に至り晩食す。

六月三日 晴。綾野来訪。九時小林、奈良兩武官と同車滙山の伏見丸に至り、四竈侍從武官と田中都吉を迎ふ。

六月四日 晴。田鍋安之助に発信す。井手友喜、横山来訪。井手は明日の船にて帰国すと云ふ。夜佐々布を訪ふ。

六月五日 半晴。医院、通信社、日報社に至り、三時帰る。六時奈良大尉と軍艦対馬に至り四竈侍從武官招待宴に列す。小林司令官を主人とし艦長、參謀以下数人、船津領事、中林郵便局長、小林陸軍官同坐たり。九時散ず。是夜月明風涼。

六月六日 晴。北京今関壽磨の信至る。午後波多、櫻井来訪。

六月七日 晴。海軍に報告を發す。北岡、通信社に至る。横竹平太郎来訪、今回商務官として着任せる者也。海軍少将野村吉三郎の信至る。田中耕太郎少将に代り軍令部三班長と為りし者也。田中は中将に進み将官會議々員と為れり。野村少将に復す。夜波多来別、明日より北支那に出張するを以て也。

六月八日 晴。九時波多を送り、軍艦対馬に小林司令官、岸科艦長を訪ひ送別、十日拔錨遡江するが爲也。帰途横竹を領事館に、井手を日報社に訪ふ。

六月九日 微雨。午後林出の来るを聞き出て訪問す、不在。三時帰る。辻、姚、島田書記生、林出賢次郎来訪。晩島田を訪ひ、十時林出を八幡丸に送る、不在。

六月十日 晴。午後佐原並に同文書院熊本学生十人來訪。肖像画家吉田不染來訪。夜報告を作る。長野

忠次の信至る。

六月十一日 半晴。日曜日。午前理髪，秋田に受診。午後報告を發す。夜奈良大尉と談ず。吉田増次郎，田中耕太郎両中将の信，並に高尾亨の書翰に接す。田中氏は中将に進み軍令部を去て将官会議々員と為りしを報じ来る。別に細川興増男，井手友喜の信に接す。

六月十二日 晴。田中，吉田両中将，並に今関，長野，井手，林出に発信す。別に佐世保伊集院に致書。八田厚志の信至る。神崎正助に信片を發す。夜島田，金子來訪。

六月十三日 晴。森茂來訪。七時金子，奈良と松岡玄雄宅の謡会に出席。鈴木，田村同坐たり。十二時散ず。

六月十四日 午後陰，夜〔に〕入て雨。八田の信至。香月，西本來訪。六時香月と井手の処に至り島田と四人鳥飯を会食，十時散ず。大島新，根津一の信に接す。

六月十五日 午後雨。佐原，大谷來訪。根津，大島に復書す。晚香月を扶桑館に訪ふ。

六月十六日 半晴。漢口荒賀直順並に入江義一，武内文彬の信至る。正午故肅親王の公子憲立氏來訪。其父の遺墨，扇面を持贈す。川島，武内に復書す。北岡，姚文藻，佐波甫來訪。財津來談。

六月十七日 晴。荻野芳藏來訪。姚文藻の為に蘇州郵便局長赤穴幹一に致書す。午後井手來訪。篠崎医院，弓術俱樂部，通信社に至り，五時帰る。柏原文太郎，久保田翠岳，関谷等の信至る。森茂，久泉，奈良來訪。七時根津一氏の招宴に一品香に赴く。村上，福岡，佐原，青木，大村，眞島，森同座，九時散ず。村上とタウンホールに赴き我柔道家と外人のボクシング競技を觀る。日本側全勝，十一時終る。橋本新次郎，林茂如の案内状至る。

六月十八日 晴。日曜日。金子來訪。内人に信片を發す。午後海軍に通信を發す。憲立氏來訪。七時井手宅に至り鰻飯を会食す。島田同坐たり。九時帰。田鍋，丈夫，八田の信に接す。

六月十九日 微雨。海軍に報告を發し，外務省にも一部を送る。小澤徳平遺髪塔建設寄附金五円を郵送す。午後医院，郵便局，通信社，弓術俱樂部に至る。夜佐々布來訪。

六月廿日 雨。夜橋本信次郎の招宴に俱樂部に出席，十時半散ず。

六月廿一日 陰。蘇州赤穴幹一並に瑞西神尾茂の信至る。山部來訪。宮崎寅藏並に内人の信至る。夜金子來訪。

六月廿二日 微雨。内人に復書す。野平道男に弔詞を發す。午前姚文藻を訪ふ。午後奈良大尉外一人來訪。蘇州赤穴に返書す。四竈侍從武官，北岡，井手，財津，秋田を歴訪し，理髪して帰る。

六月廿三日 陰。四竈少將來訪。夜頭痛。

六月廿四日 雨。九時四竈を吉野丸に送る。六時杏花樓の県人会に出席す。九時帰る。赤穴の信至る。

六月廿五日 半晴。九時半池田と同文書院の卒業式に出席し，一時帰る。青島中西政〔正〕樹の電報並に書信至る。之に復す。晩雨。

六月廿六日 雨，午後晴。通信社に至る。小西の信至る。夜佐々布を訪ふ。

六月廿七日 半晴。田鍋安之助の信至る。之に復す。午後北岡，井手を訪ふ。夜香月來訪。

六月廿八日 雨。佐原來訪。高橋謙の信至。

六月廿九日 雨。高橋に復書す。香月を訪ふ，不在。根津の信至る。佐々布來訪。

六月三十日 陰。波多北京よりの信至る。午前姚文藻を訪ふ。蘇州赤穴幹一に致書す。午後井手來訪。夜金子，横山，渡辺源七來訪。根津氏の帰国を山城丸に送る。報告を作る。

七月一日 陰，午後雨。天明起床，報告を作り之を海軍と外務省に發送す。北岡，船津，井手，田中を訪ふ。晌午金陵丸にて楊樹浦に至り，箱崎丸を迎へ安保中将一行に晤す。國際聯盟委員として渡欧する者なり。三時帰て中食す。四時篠崎医院に至り薬価を払ひ，理髪，波多宅に小談，帰る。七時より商務官横竹平太郎の招宴に俱樂部に赴き，九時半帰る。伊集院俊，田上二雄の信至。

七月二日 雨。日曜日。六時より船津領事の招宴に赴く。安保中将，鳥巢少將，三浦少佐の一行，並に

万国代議士同盟会に出席の代議〔士〕今泉、湯浅、櫻内、正木、田洲列と、北岡、鈴木両少佐、佐原、木下、田中、副島等同坐たり。十時半散ず。

七月三日 陰。山田謙吉其子女を伴ひ来訪。林徳太郎の信至。

七月四日 陰、微雨。午前鈴木鳥羽艦長来訪、明日より遡航すと云ふ。中食後楊樹浦東華造船所の鳥羽艦に鈴木艦長を訪ひ送別。帰途井手、通信社に小談、帰る。姚文藻来訪。七時波多を訪。今夕北支那より帰来せる者也。朝鮮葉室謹純より写真を送り来る。

七月五日 雨。葉室に信片を發す。午後香月、波多来訪。八田の信至る。

七月六日 雨。谷口来訪。井出大佐、高尾亨、赤穴幹一並に内人に致書す。安東、宮永祐雄来訪。午後井手を訪ひ、去て日蓮宗本国寺に至り、杉山仁雄に面し寺院新築落成祝儀拾円を納め、帰途村田孜郎を訪ふ。

七月七日 陰。

七月八日 晴。午前北岡少佐来訪。夜金子と出て我柔道家と外人拳闘家との競技を観る。十一時帰る。

七月九日 陰。午前三井保険課より電話にて健二郎病氣の爲め慶応大学病院に入院の事を通知し来る。

丈夫に電報を發す。午後井手を訪ふ。丈夫に発信す。佐原、岡本大八、大谷来訪。夜井手を訪ふ。

七月十日 半晴。午前三井保険課主任伊藤継丈夫よりの電報を携へ来訪。姚文藻父子、篠田宗平、井上清秀、永野元彦来訪、煙草数箱を贈る。岡幸七郎、佐原の信至。香月梅外来訪。晩共に出て同春に至り会食し、波多を訪ひ九時帰る。

七月十一日 晴。報告を作る。須磨艦長池田他人大佐並に北岡少佐来訪。岡、荒賀に致書、帰京を報ず。横山、金子来訪。晩井上清秀、香月梅外、北岡と通信社を訪ふ。余洵来訪。

七月十二日 晴、熱甚。報告を作り之を海軍と外務省に發す。石田来訪。午後北岡を訪ふ。

七月十三日 晴、熱甚。前八時半汽艇にて軍艦須磨に艦長池田大佐を訪ひ寛談、中食の饗を受けて帰り、通信社に小談、帰寓。夜佐々布を訪ふ。

七月十四日 晴、熱度九十。午前細川侯派遣生布田源之助、石光眞臣、山田珠一の紹介状を以て来訪。軍令部より七、八、九、三ヶ月の手当を送り来る。田鍋の信至る。軍令部田鍋に発信す。海軍大尉佐藤源蔵来訪。晩扶桑館香月の室にて大谷、佐原と鰻飯を会食、九時帰。

七月十五日 晴、熱甚。午前香月を訪ひ送別、本日帰国するを以てなり。船津、井手、北岡、郵便局に至り、正午帰る。午後渡辺天洋、佐藤大尉、布田来訪。

七月十六日 晴。日曜日。朝石田来別。八時半日光丸に船津夫人、石田を送る。十一時丈夫の電到り入院中の健二郎経過良好を報ず。丈夫に致書す。海軍々令部藤吉中佐の信至る。波多来訪。野村少将、並に内人の信至る。内人に復書す。神尾茂来訪。夜島田来談。

七月十七日 晴。午前郵便局に至り海軍よりの送金を受取り、井手と小談、帰る。副島綱雄来訪。七時福岡禄太郎の招宴に倶楽部に赴く。会者同文書院関係者二十余人、十時散ず。

七月十八日 晴。佐々布、井手来訪。七時美麗川菜館の神尾茂招待会に出席す。神尾最近欧米の游より帰りし者なり。九時半散ず。

七月十九日 晴。午前理髪、埠頭に至り熊野丸を迎ふ、至らず。井手の処に中食して帰て、再び出て熊野に野村吉三郎、藤吉峻を迎へ豊陽館に至り暢談。晩波多宅に至り鰻飯を会食、九時帰る。漢口荒賀、岡の信至る。金子四郎来訪。

七月廿日 晴。岡次郎、丈夫の信至る。岡、丈夫、八田、河口、岡幸七郎、内人、亀雄に信片を發す。午後野村少将来訪。晩佐原の処に至り井手、福岡、遠藤、眞島と会食し同文書院の事を商議、十一時帰る。

七月廿一日 晴。行李を整頓す。西山来訪。夜波多夫婦、佐原来訪。

七月廿二日 陰、晌午驟雨。野村少将を訪ひ、正午其招待に倶楽部に赴き午餐す。同坐は船津、北岡、

藤吉、佐原、西本、波多列也。二時散ず。波多と軍艦対馬に赴かんとし税関埠頭に至り、汽艇出発後にして及ばず。四時の汽艇にて行き小林司令官を訪ひ、五時帰る。野平道男、李泉溪の信至る。十一時半野村、藤吉を車站に送る。岡幸七郎に致書す。高木来訪。

七月廿三日 晴。午前日報社、通信社、北岡、財津、秋田、波多を訪ひ別を告ぐ。佐々布、佐波甫来訪。佐々布を留め申す。晩林出、石田賢の信に接す。林出に復し、伊藤継に信片を發す。夜波多夫人、西本、島田来訪。

七月廿四日 陰。神尾茂に信片を發す。午前井手、北岡、神尾来訪。午後佐原、福岡、友野、波多来訪。佐波甫より料理を送り来る。明日の山城丸にて帰国せんとす。行李を收拾す。

七月廿五日 晴。金子、横山、佐々布来訪。十時東和洋行を出で瀬山碼頭に至り山城丸に上る。波多、井手、島田、北岡、池田、櫻井、西山、不破、上杉、馬場、赤星、菊池、並に通信社員一同来訪。安原美佐雄同船たり。十一時開船。

七月廿六日 晴。海上。

七月廿七日 晴。前六時半長崎着。九時土佐屋に入る。午後理髪。夜十一時の汽車にて長崎を發す。

七月廿八日 晴。前七時半門司着。第一艦隊の関門通過を観る。遠近來り観る者堵の如し。九時半の急行車にて下関を發す。福岡日々新聞社員草野某来訪。

七月廿九日 晴。熱氣如焚。十二時半新橋着丈夫來迎。自動車にて北新門前の寓に入る。

七月三十日 晴。日曜日。終日門を出でず。夜内人と四谷慶応病院に健二郎の病を見て帰る。

七月三十一日 晴。午前軍令部に南郷、井出、八角、柴田諸氏を訪ひ、去て外務省に伊集院、高尾を訪ふ、不在。米内山と小談。虎ノ門に西田家を訪ひ小坐、辞して同文会に田鍋を訪ひ暢談。中食後東方通信社水野、大枝を訪ひ、三時帰る。雷雨。

八月一日 晴。同文会より案内状至る。上海眞島、福岡に致書し、門司本山義人に返信を發す。午後堀中佐悌吉来訪。

八月二日 晴。午後田鍋安之助来訪。晩食後渋谷に亀雄を訪ひ、九時帰る。

八月三日 微雨。午前海軍に山下軍令部長、井出次官に名刺を留め、外務省に内田外相、高尾亨を訪ひ、去て通信社に不破、大枝と小談、帰る。白岩龍平来訪。晩同文会の招宴に鮫洲の川崎屋に赴く。同坐は田鍋、牧田、柏原、一ノ宮、山田謙吉、坂本、外一二人なり。九時半散ず。

八月四日 晴。午前水野梅曉来訪。

八月五日 晴。午前石田賢、午後不破、大枝来訪。

八月六日 晴。熱甚、華氏九十五度。漢口岡幸七郎の信並に上海津田中佐、北岡少佐、島田、佐原、西本、神尾等の信片に接す。午後健二郎退院帰家。

八月七日 晴。熱甚。午前理髪、宇土法華寺並に城山の墓番に盆会の花料を郵送す。是日健二郎再び慶応病院に入る。予後不良の爲なり。六時半外務省高尾の招宴に紅葉館に赴く。同坐は高尾、米内山、不破、水野、大枝、野村、重松、等十二人也。炎威如燬。九時散ず。

八月八日 晴。是日立秋。河口、古閑、田辺の信至る。

八月九日 晴。

八月十日 晴。午前軍令部、白岩、篠寄を訪ふ。上海船津、波多、海軍伊集院に致書す。上海眞島の電報至。

八月十一日 晴。田鍋に致書す。

八月十二日 晴。井手、島田、津田、古賀、金子列に上海に致書し、外に加藤壯太郎、田鍋に発信す。佐原、佐々布に信片を發す。午後慶応病院に健二郎の病を看、帰途青山に白岩、山本、吉田、山岡諸氏を訪ひ、去て赤十字病院に亀雄の病を問て帰る。晩雨。

八月十三日 晴。

八月十四日 雨。田鍋の信至る。
八月十五日 雨。上塚司に復書し、田中耕太郎に信片を發す。
八月十六日 晴。午前軍令部に加藤次長を訪ひ、晌午帰る。午後加藤壮太郎來訪。鳥居素川の信至。
八月十七日 晴。鳥居に復書す。晚田中清司來着。
八月十六日 晴。前九時半津久井を東京駅に送る。
八月十九日 晴。
八月廿日 晴。理髮。
八月廿一日 晴。午前軍令部、外務省、通信社、同文会を歴訪す。波多博、岡幸七郎、井出光輝に発信す。石田賢の信至る。
八月廿二日 晴。上海井手三郎、津田中佐の信並に軍令部井出大佐の信に接す。
八月廿三日 驟雨屢至。中島為喜の信至る。
八月廿四日 暴風雨。田中清司の信至る。
八月廿五日 陰。鳥居の信至る。金子四郎、西本省三の信片に接す。晚雨。
八月廿六日 風雨、晡時放晴。井手と佐原、西本に復書す。
八月廿七日 晴。午前岡次郎來訪。午後藤瀬宅と名和大将を訪ひ、四時帰る。石原醜男に母堂を弔し奠儀を送る。
八月廿八日 晴。午前軍令部に藤吉、野村を訪ひ、去て上六番地田中耕太郎を訪ひ、晌午帰る。午後伊集院俊並に亀雄を病院に訪ふ。
八月廿九日 晴。午前篠寄を訪ひ中食の饗を受けて、二時帰る。西田氏來訪。
八月三十日 晴。田鍋、西山の信至る。西田家より西瓜を贈り来る。午前田中中将来訪。午後軍令部に野村少将、井出大佐を訪ひ、去て外務省に伊集院大使、速水一孔、上田仙太郎を訪ひ、五時帰る。
八月三十一日 晴。夜水野梅曉來訪。
九月一日 半晴。午後山岡海軍中将来訪。夜慶応病院に健二郎の病を看る。
九月二日 陰。午後健二郎退院、帰家。
九月三日 晴。増田高頼夫人の訃に接す。弔詞を發し奠儀を送る。篠寄都香佐來訪。
九月四日 晴、風大。午後白岩來訪。六時海軍々令部加藤次長の招宴に水交社に赴く。同坐は名和大将、吉田、山岡両中将、野村少将、八角、井出両大佐、藤吉、梅田両中佐、柴田少佐等なり。食後席を中庭に移し涼を納る。明月一輪秋意可掬。九時辞帰。
九月五日 晴。
九月六日 晴。上海波多の信至る。
九月七日 晴。井手の電報至る。午前水野梅曉來訪、明夕より満洲に赴くと云ふ。午後白岩を訪ふ。橘三郎に邂逅す、小談。去て軍令部より同文会に至り田鍋に会し、四時帰る。上海井手に致書す。是夜旧曆壬戌七月既望月極朗。
九月八日 微雨。午前伊集院俊來訪。午後四時同文会に田鍋と会し、共に出て宮島大八の病を千駄ヶ谷に問ひ、六時帰る。夜山内清來訪。波多の電報に接す。
九月九日 晴。午後中島眞雄來訪。岡幸七郎の信至る。
九月十日 晴。日曜日。深水十八來訪。
九月十一日 晴。午前外務省に高尾、速水、米内山を訪ひ、正午帰る。午後野村潔巳來訪。波多に致書す。晚篠寄を訪ふ。
九月十二日 晴。午後高尾を外務省に、八角、井出両大佐を軍令部に訪ふ。伊達源一郎來訪。
九月十三日 晴。深水十八、水野梅曉、波多博に致書す。午後安河内弘、三浦稔來訪。
九月十四日 晴。深水十八來訪。

九月十五日 晴。前九時品川車站に至り田鍋、速水、野村潔巳と会し、桜木町行電車に乗り横浜に至り、八幡橋行に転乗し、日本橋にて弘明寺行に換坐し、弘明寺より自動車を賃し鎌倉に至り、円覚寺前を過ぎ長寿寺前に下車し中島眞雄宅に至る。現に中島は長寿寺を永代租借して家屋を改造し庭園を修築して居り、此に卜せり。寺は足利尊氏の菩提所にして其木像を安置せり。境内雅潔迷静塵喧に遠ざかり、嵐翠窓に満ち心襟洗ふが如し。中食の饗を受け衣を更て寛坐談笑。晡に及んで主人並に一行と出て、建長寺前を過ぎ小坂を下り鶴ヶ岡八幡の大祭に詣し、鎌倉停車場前にて中島と別れ電車にて海浜旅館前に下車し、亀井陸良の病を長谷の寓に問ひ小談。辞して車站に至り六時半の汽車にて帰途に就き品川に下車、一行と別れ八時寓に帰る。岡西門の詩信に接す。

九月十六日 晴。午後八角大佐来訪。

九月十七日 陰、冷氣頗に加はる。午前市ヶ谷に佐々、守田両家を訪ひ、正午帰る。午後中島為喜来訪。八田厚志の信至。

九月十八日 晴。午前三浦稔来訪。午後亀雄の病を赤十字病院に問ひ、帰途高島、安達、伊集院を訪ふ、皆不在。伊集院大使の案内状至る。

九月十九日 晴。岩崎宰氏来訪。古城、尾越に信片を發す。午後外務省に至り埴原次官、高尾、矢田部、伊集院、伊達、不破等と会し通信社の事を商量し、散後米内山、速水と談じ、四時帰る。六時東方通信社の催せる高尾亨の送別会に日比谷陶々亭に出席、支那料理にて九時散ず。雨。

九月廿日 雨。午前安河内来訪。午後理髮、篠寄来訪。

九月廿一日 半晴、冷氣肌を襲ふ。上海船津辰一郎に致書す。夜八田厚志来訪、本日広東より帰来せりと云ふ。

九月廿二日 晴。午後田鍋安之助来訪。

九月廿三日 雨。午前安河内を三光町に訪ふ。成田鍊之助来訪せりと云ふ。中島眞雄、八田厚志、成田鍊之助に致書す。六時伊集院大使の招宴に紅葉館に赴く。同坐三十余人、九時帰る。

九月廿四日 快晴。午前八田厚志、成田鍊之助、尾越辰雄、岩崎宰諸氏を歴訪、正午帰る。波多に発信す。

九月廿五日 晴。午前宮島大八来訪。午後篠崎を訪ふ。

九月廿六日 陰。午前田鍋、加藤壮太郎を訪ふ、不在。軍令部に八角大佐、外務省に米内山を訪ひ小談、正午帰る。高嶋醇、八田厚志来訪。田中中将の信至り、菓子一箱を小包にて送り来る。田中に礼状を發す。五時京橋鎗屋町清新軒の招待に赴く。同坐は中島眞雄、田鍋安之助、佐藤安之助、河野久太郎、角田隆郎、鈴木恭堅、宮島大八、三谷末次郎、川村景敏、下田奎一、岡田傳吉、河野仙之助、河西信、中川義彌、篠寄都香佐、岡田晋太郎、戸田義勇等にして、中に相見ざる三十年の久しきに亘る者あり。談論十時に及んで散ず。

九月廿七日 雨意。午前軍令部に北岡少佐を訪ふ、不在、浅田書記と小談、去て同文会に田鍋、牧田を訪ひ、正午帰る。岡幸七郎、鳥居素川の信至る。午後中川義彌来訪。阿倍野利恭に其母堂を、福島将猛に其父の死を弔し、並に香典を送る。午後中川義弥、不破瑳磨太来訪。加藤壮太郎の信至る。

九月廿八日 陰。前九時半伊集院彦吉、高尾亨の関東州への赴任を東京駅に送り、帰途海軍々令部に至り、正午帰る。三時佐々友房、高見廣川両先輩の追悼会に白山前の龍雲院に列席す。佐々未亡人、高島義恭、久野昌一、浅井栄熙、守田愿、木下宇三郎、蓑田喜太郎、中島半次郎等列席、六時終る。

九月廿九日 半晴。午前肥後銀行に至る。

九月三十日 晴。熊本電気会社に株券四枚を書面にて郵送す。

十月一日 快晴。午後八角大佐を高輪に訪ふ、不在。帰途竹下中将を泉岳寺前に訪ひ暢談、五時帰る。理髮。眞島の電報至る。

十月二日 晴。午後本山義人来訪。六時外務省矢田部保吉の招宴に赤坂瓢家に赴く。大枝、不破、坐

間、大城、野村、鍋島、松田、久我、米内山等同坐たり。九時散ず。

十月三日 雨。眞島に信片を發す。

十月四日 雨。安河内弘の信至る。

十月五日 晴。午前内人と雄を伴ひ芝公園に散策す。午後大枝義祐、浅田久三郎來訪。大枝は七日より支那に赴くと云ふ。浅田は軍令部よりの手当十、十一、十二月を持送す。上妻博路死去の電報に接す。

十月六日 陰。正午日本俱樂部に至り末永一三と会食し、帰途軍令部に八角大佐、大湊副官、野村少将、藤吉中佐と会談し、去て外務省に矢田部書記官を訪ひ帰る。佐々布の信に接す。之に復す。佐々布の信至る。

十月七日 雨。午前北岡少佐來訪、新に上海より歸來せる者也。上海大枝義祐に致書す。上海船津辰一郎、佐々布質直の信至る。

十月八日 雨。鳥居、波多に復書す。波多の信至り九月分手当を送り来る。北京伊達源一郎に発信す。

五時鎗屋町清新軒の川島浪速慰労会に出席す。同坐十七人。田鍋、上泉、山根武亮、宮島、大竹、佃、田中舍身、大久保、鈴木、松平、石川半山、外数人なり。十時散ず。

十月九日 快晴。午前清子を伴ひ赤十字病院に亀雄の病を問ひ、去て山本、白岩宅を歴訪、正午帰る。

午後横田安止來訪。熊本博之に其弟の死を弔し奠儀を送る。大連病院入院中の中西正樹に見舞状を發す。五時赤坂八百勘に野村少将の約に赴く。藤吉、北岡同坐たり。十時散ず。

十月十日 快晴。丈夫台北転任に付き福田大将、迫田、鉦鹿等の諸知人に紹介状を作る。

十月十一日 晴。上杉益喜外一人來訪。神戸八田厚志の信至。

十月十二日 晴。午前内人と雄一郎を伴ひ日比谷公園に遊ぶ。吉富直純來訪。

十月十三日 晴。午前北岡春雄を三光町に訪ひ、晌午帰る。上杉來訪。

十月十四日 晴。上海佐々布より田鍋注文の外套を郵送し来る。午前田鍋を同文会に訪ひ之を交付す。佐々布に信片を發す。

十月十五日 晴。午後角田隆郎來訪。

十月十六日 陰。古閑信夫に其母堂を弔す。午後理髮。

十月十七日 陰。午後四時より筈町岩崎宰氏の招邀に赴く。同坐は伊集院俊、椎原小熊、山下弥七郎、國吉某、吉富、外二名なり。十時散ず。夜半雨。

十月十八日 雨。島津久徴に信片を發す。三十余年前の知交。其の口の永良部島に在るを聞知せるを以てなり。

十月十九日 晴。

十月廿日 晴。八角大佐より汽車汽船の割引券を送り来る。奈良、八田の信至る。是日丈夫宅を引払い全部遷り来る。

十月廿一日 快晴。金生館主人來り八田厚志の贈初代應永則光の刀一口を届け来る。八田に礼状を發す。

十月廿二日 快晴。八角大佐に致書す。午後安河内、本山義人來訪。関谷雲崖より菓子一箱を送り来る。

十月廿三日 快晴。午後関谷雲崖を巴町二四に訪ふ。上海波多、佐々布、東和洋行、井手、島田に致書す。

十月廿四日 快晴。午前加藤壯太郎來訪。

十月廿五日 陰。午前宮島大八來訪。是夕より丈夫、清子、並に雄、健の両孫家を辞し台湾に赴くが為に朝來行李を整頓す。午後六時内人と共に児等を送て東京駅に至る。七時半發車、別を叙して帰る。

十月廿六日 風雨、午後晴。成田鍊之助、中島為喜來訪。六時橘三郎の招饗に田町春梅に赴く。同坐は本日上海より歸來せし船津辰一郎、並に白岩龍平、上田仙太郎、杉本重道等也。九時半散ず。

十月廿七日 快晴。午後内人と亀雄の病を問ひ、五時帰る。

十月廿八日 晴。午前水野梅曉來訪。午後伊集院俊來訪。

十月廿九日 快晴。丈夫門司より〔の〕信片に接す。大連病院入院中の中西正樹の信並に手術後の写真を送り来る。午後内人と明治神宮に参拝し、宝物館に至り先帝の御遺物を拝観し、夕刻帰る。石光眞臣の信片至る。

十月三十日 健晴。午前商業銀行、郵便局に至る。

十月三十一日 陰。天長節、祝日。午前本山義人、上杉益喜、外一人来訪。本山を佃信夫、田鍋安之助に紹介す。午後五時伊集院俊の晩餐に赴く。岩崎宰、寺田峯南、梅園正良同席たり。九時半散ず。明石より狩野直喜、鳥居素川、古城貞吉の信片、熊本松倉の信片至る。

十一月一日 微雨。午後田鍋を同文会に訪ふ。鳥居の信至る。鳥居、狩野、並に上海波多、東和洋行に帰期を報ず。

十一月二日 晴。午前市原源二郎来訪、中食後去る。午後関谷雲崖。

十一月三日 晴。明治天皇祭。午前宮島大八を代々木に訪ふ、不在。帰途名和大将を今里町に訪ひ、晌午帰る。午後吉田、山岡両中将を訪ひ辞別。

十一月四日 晴。午前海軍々令部に野村少将、大湊副官、八角大佐、藤吉、久保田、柴田の中少佐、並に浅田書記を訪ひ告別、去て外務省に矢田部、速水列に別を告げ、東京駅に至り乗車券を購ひ、東方通信社に不破、野村等を訪ひ、正午帰る。奈良、八田厚志、並に長崎土佐屋に発信す。午後田鍋来訪。

十一月五日 晴。田中耕太郎、加藤壮太郎に致書す。午前名和大将来訪、菓物、茸一簍を持贈せらる。

本山義人来訪。午後成田と岩崎宰翁を訪ひ暢談、帰途伊集院俊に別を告ぐ。晡時速水一孔来訪。

十一月六日 晴。理髪。午前宮川守善、午後中島為喜来訪。明朝家を辞し支那に赴かんとす。行李を收拾す。午後不破瑳磨太、山岡中将来訪。松倉の信片至る。之に復す。夜内人と十番に至り物品を購ふて帰る。

十一月七日 晴天。是日家を辞し支那行に途に上らんとす。前八時二十分上車東京駅に至り、九時半の特急車に乗ず。八角大佐、不破、西田夫人、令嬢、中島為喜、成田鍊之助、野村潔巳、田中清、坐間、市原薫、本山義人、岩崎宰翁来送。夜九時十五分神戸着、八田厚志来迎日本刀一口を持贈。

十一月八日 微雨。前四時起床。九時半下関着。大雨如注。門司に渡り十時五十分の車に乗じ、午後五時十五分長崎着、土佐屋に投ず。是日沿道の霜葉極て美観たり。

十一月九日 晴。東京宅、台北、田中、河口、菅村並に八田厚志に致書す。午後大雨如注。終日在寓、風邪の気味あり。

十一月十日 晴。午後二時東洋汽船会社の大洋丸に上り、二百四十七号室に入る。五時出港。此船噸数一万四千、設備頗完美せり。

十一月十一日 快晴。海上平穩、秋空如洗。有詩、

四十年来老客游、長風又破浪舟、海空一碧秋如拭、天末何辺吳越州。

十一月十二日 快晴。前一時吳淞口外に入る。七時半会社ランチ到る。行李の載卸に時間を要し九時半始て開船、十一時上海着。井手、島田、津田中佐、波多、井手友、西山、櫻井、菊池、石田の諸人、並に通信社員来迎。波多と同車東和洋行に入り中食を共にす。井手兄弟、山成、辻、池田来訪。

十一月十三日 晴。軍令部に発信す。午前波多、佐原、津田、通信社、領事館、秋田を歴訪し、上海日報の新宅に井手兄弟、島田を訪ひ中食の饗を受け、午後一時櫻木俊一夫人の葬儀に西本願寺に列し帰る。津田中佐来訪せりと云ふ。三時半軍艦安宅に小林司令官、梅田艦長、山本副官を訪ひ、五時帰る。夜金子、佐々布、横山、西本、波多、根津、薛徳樹来訪。佐々布談、十二時に及で去る。

十一月十四日 陰。午前三井に野平、伊藤を訪ひ、去て豊陽館に津田中佐を訪ひ、通信社に小談、帰る。午後佐原、余穀民来訪。夜佐々布を訪ひ田鍋より依托の金子を交付す。

十一月十五日 陰。西本省三来訪。午後船津領事を訪ふ。本日帰来せる者也。通信社に小談、帰る。白岩龍平、久保田少佐並に丈夫の信至る。六時根津同文書院長の招宴に一品香に赴く。船津、田中以下

領事館員、並に同文書院職員諸人なり。九時散ず。雨。

十一月十六日 半晴。姚文藻来訪。内人に致書す。午後鄭孝胥を訪ふ、不在、去て村上貞吉を訪ふ、又不在、四時帰る。石田来訪。内人の信、並に武田近次郎の信片至る。六時波多宅の晩餐に赴く。村田孜郎の嚴君、木村申丙、村田孜郎夫婦、其他一、二人同坐たり。九時散ず。内人に復書す。副島来訪。

十一月十七日 快晴。心気不舒。前七時伊達源一郎を車站に迎ふ。帰て吐瀉一回、元氣稍や復す。太田宇之助来訪。六時俱樂部に至り伊達を主とし社員一同と会食、散後篠崎医院より薬を取て帰る。下痢数次。

十一月十八日 晴。前九時半根津一夫婦、井手三郎の帰国を日光丸に送り、帰途船津に一晤。是夕より三井一行と出獵せんとす。午後獵装を治す。心気尚佳ならず、微熱有り。渡辺天洋来訪。五時上船。野平、佐々布、木田、外一人同行たり。六時開船。

十一月十九日 快晴。未明平湖着。七時高橋に至り上陸打獵九時迄に雉子に四射して四羽を獲、十一時帰船。午後又た上陸、一射せずして帰る。

十一月廿日 晴。未明上海着、七時一行に別れ寓所に帰る。伊達夫婦、波多、塩島宇治艦長前後来訪。六時伊達、波多両夫婦、塩島中佐、金州民政署長小早川貞登、池田、石田、大川等を招き雉子を会食し、十時散ず。西本、岩間徳也来訪。

十一月廿一日 晴。理髮。北代、渡辺来訪。午前佐原、財津を訪ふ。小早川貞登来訪。余穀民、木下昇平来訪。門野重九郎より其支那鉄道に関する意見書を送り来る。六時半より伊達、波多両夫婦と船津官邸に赴く。小林司令官、梅田、齋藤、津田三中佐、佐原同坐たり。九時宴散ず。伊達来談。

十一月廿二日 快晴。九時伊達の帰国を博愛丸に送り、通信社に小談、帰る。高木謙吉夫婦来訪せりと云ふ。午後六時岩間徳也請待会に俱樂部に出席す。同坐二十余人、九時散ず。小林司令官の案内状に接す。

十一月廿三日 晴。岩間徳也来訪。午前船津、津田、通信社、橋を訪ふ。内人の信至る。夜金子、横山を訪ふ。報告を作る。

十一月廿四日 晴。午後佐々布来訪。海軍に報告を發し、上海日報社を訪ふ。金子来訪。

十一月廿五日 陰、寒。東京宅、内田友義、菅村、宮崎信夫、古賀、磯谷少佐、齋藤大佐、平川淑、三澤、郡島、高橋謙、池部政次、坂田長平、今関、立花政樹に返信を發す。午後六時小林司令官の招宴に美麗川菜館に赴く。同坐は船津、中林、小林少佐、梅田、塩島兩艦長、津田、齋藤兩〔中〕佐以下海陸軍、領事館員等二十人。九時散ず。寒氣凜烈。

十一月廿六日 晴。日曜日。波多を訪ふ。台北丈夫、清子に致書。晚井手友喜宅に会食。

十一月廿七日 快晴。山岡、名和中大將、門野重九郎、不破、坐間、野村、山内、市原、成田、鈴木大尉、中島為喜に致書す。西本、武田来訪。午後津田、西本と鄭孝胥を訪ふ。晚波多来訪。其囑に依り烏江画く所の峨眉千仞崖の幅に題す。夜横山来訪。金子に抵り小談。高橋謙、上杉益喜、古賀末藏、並に面識無き小林末吉なる者の信至る。西田敬止に致書。

十一月廿八日 快晴。

十一月廿九日 快晴。海軍に報告を發し、白岩に復書。波多来訪。晚中林郵便局長の招宴に其邸に赴く。小林司令官、津田、倉賀野、山本、齋藤等海軍將校同坐たり。

十一月三十日 快晴。田鍋、岡、龜雄の信至る。松岡医院に至り齒を療す。高橋謙、岡、田鍋に返信す。細川子爵の公子立俊君逝去に付き子爵に弔詞を發す。夜佐々布を訪ふ。

十二月一日 陰。山本少佐清来訪。午前齒を療す。太田、智識来訪。智識は太田に代はりて朝日新聞の特派員たる者なり。船津より案内状至る。浙江出獵の先約有るを以て辞す。井手の信至る。之に復す。晚太田、智識兩人の送迎に美麗川に出席す。

十二月二日 快晴。篠崎都香佐来訪、昨夜支那内地より帰りしと云ふ。午前山本清の帰国を日光丸に送

- り、帰途津田中佐の処にて小林司令官其他と暢談、去て齒療を為し、晌午帰る。内人、並に宮崎信夫に致書す。五時三井一行と出獵。野平、立川、小島、佐々布、米田、中村同行たり。
- 十二月三日 快晴。前七時転塘橋上陸打獵午前一羽を獲。午後淡水橋に船を移す。無所獲。
- 十二月四日 未明風雨。七時一行に別れ帰寓。竹内勝太來訪。午前齒療、波多、篠崎を訪ふ。齋藤恒大佐、八田厚志両夫婦連名の信片至る。伊達源一郎の信に接す。夜横山、金子と談ず。
- 十二月五日 晴。理髮後篠崎を訪ひ、去て松岡医院に齒を療す。夜太田、智識の招宴に俱樂部に出席、來客五十人。九時散。
- 十二月六日 雪。九時太田宇之助の帰国を送り、晌午齒療、井手宅の午喰に赴く。篠崎、村上、佐原、西本、波多等同坐たり。二時散ず。山成來訪。晚波多宅にて雉子を会食。
- 十二月七日 晴。台北市丈夫の信、並に内田友義、同文会の信至る。丈夫に復す。松岡に至り齒療を了し、正午篠崎の午喰に俱樂部に赴く。曾熙、向榮、鄭孝胥、姚文藻、西本、秋田同坐たり。七時篠崎の留別宴に俱樂部に赴く。同席六十人、九時散ず。
- 十二月八日 快晴。海軍に報告を發し、別に八角大佐に致書す。夜佐々布來訪。
- 十二月九日 快晴。篠崎、津田を訪ひ、去て竹内勝太の帰国を送る。午後獵装を治す。六時上船。三井一行、並に石崎と七人也。
- 十二月十日 晴。七時虹霓上陸打獵、午前雉子一、鴨一を獲。午後高橋に移る。無所獲。
- 十二月十一日 晴。未明上海着、七時帰寓。東京の信、並に宮崎信夫の信至。午後篠崎、大谷光瑞師の帰国を送る。
- 十二月十二日 陰。午前津田、日報社、智識を訪ふ。東京宅、浅田久三郎に致書す。名和、竹下、吉田、山岡、田中、山下、加藤等の大中将、八角大佐、東京留守宅に筭を郵送し、之が通知狀を發す。余毅民來訪。
- 十二月十三日 晴。朝鄭孝胥を訪ひ画題を託し、帰途佐原の病を問ふ。午後竹内克巳、児玉璋一來訪。夜横山六輔來訪。
- 十二月十四日 雨。佐々布來訪。辻宅より日本魚の味噌漬を贈り来る。
- 十二月十五日 晴。波多、智識來訪。岡次郎の信至る。夜児玉、竹内の招宴に俱樂部に列す。理髮。
- 十二月十六日 晴。朝鄭孝胥を訪ひ、午後児玉、竹内、井手を訪ふ。岡次郎に復す。
- 十二月十七日 晴。咳嗽微熱、終日静養。
- 十二月十八日 晴。尾田満の案内状至る。之を辞す。午後津田、通信社を訪ふ。小林司令官に鄭孝胥題款の天柱山画幅を返還す。山本清、上杉益喜の信至る。永尾只全來訪。夜金子來訪。咳甚不能眠。
- 十二月十九日 晴。秋田医士に受診。岡西門より張之洞手札一卷を送來、之に復す。
- 十二月廿日 晴。心氣不舒服藥静養。夜金子と談ず。
- 十二月廿一日 晴。午後医院より通信社、晚翠軒に至る。岡より湘筆三十枝を送り来る。岡に致書。森清治に書狀にて家屋借入を交渉す。細川立興子爵の信、太田宇之助、赤穴幹一の信書に接す。
- 十二月廿二日 晴。日報社、松岡医院、波多を訪ふ。山成來訪。午前波多を訪ふ。
- 十二月廿三日 半晴。各地へ年賀狀を發し、篠崎医院に藥を求て帰る。午後獵装を治す。是日より三井一行と海塩に出獵せんとす。海軍に通信を發し、東京宅に信片を發す。副島綱雄より歳暮品を贈り来る。大林一之來訪。五時税関碼頭に至り上船、野平、柳田、佐々布、米田同行たり。
- 十二月廿四日 快晴。前七時半北王橋上陸、白苧里に向ふ。途中雁群を發見して二羽を獲、外に雉子二羽を打ち、晌午白苧に着す。中食後上陸海塩に向ふ。五時船に帰る。獲る所無し。
- 十二月廿五日 快晴。船を新木橋に移し上陸、形勢甚好し。正午船に帰る。午後海塩の梅林に赴き打獵。是日僅に鶉一羽を獲たるのみ
- 十二月廿六日 晴。午前新木橋を發し海塩附近を獵す。無所獲。中食後船を淡水橋に移し一行は転塘橋

より上陸、余は淡水に至り夕陽少時打獵。無所獲。

十二月廿七日 快晴。前七時半上海着。八角大佐、内人の信、並に山下大将の信片に接す。西本来訪。

夜金子、横山来訪、金子温州蜜柑を贈る。

十二月廿八日 晴。佐原に雁一羽、金子に雉子一羽を贈る。波多来訪。北京横山八郎、姚振新の信至る。午後理髮、秋田を訪ひ雉子を贈り、六時佐原宅の集に赴く。船津、津田、西本、波多来会、十一時散ず。

十二月廿九日 晴。山岡、田中両中将、北岡中佐、河口介男の信至る。名和大将、神尾茂、野村少将、清野の信に接す。晚西本の小宴に倶楽部に出席、九時帰る。佐々布来訪。煙酒外一品を持贈。

十二月三十日 晴。野村少将に復書し筭一包を郵送す。対馬艦長池田他人大佐来訪。昨日海軍より十月以降の手当、東方通信社より年末手当を送り来る。之に領収証を発送す。佐々布来訪。夜金子を訪ふ。

十二月三十一日 晴。島田数雄、中川外雄、横山、辻夫人来訪。山口啓三来訪、例に依り鮭筋子二缶を贈る。午後八田厚志、波多来訪。八田は欧洲行の途次本日着せし者也。中川外雄を訪ひ、東京宅に送る鮭筋子を托し、北四川路中有天の許君の招宴に赴く。佐原、八田、波多、以下東方社員全部と薛呉等同坐たり。八時半散ず。波多の処に八田等と談じ、十時帰り蕎麦を吃す。内人の信並に竹下、吉田両中将、八田大佐の信に接す。是日大正十一年尽日たり。夜を守て新歳を迎ふ。

3. 大正 12 年 1 月 1 日から 15 日までの日記

大正 12 (1923) 年の 15 日間の日記は、一綴じになっているが、それまでの日記と違って宗方が自ら綴じたものではない。

前年 11 月中旬に日本から上海に戻っていて、それまでのほとんどの正月の過ごし方同様、元日は領事館に出かけて天皇の「聖影」を拝み、日本人倶楽部の名刺交換会に顔を出している。そして、その日のうちに三井洋行の仲間と鳥撃に出かけている。しかし、厳しい寒気に襲われ咳がひどくて眠れず、獵に出る体力がないまま上海に戻っている。その後も体調は好転せず、医者診察を受け外出は控えるものの、来訪者とは会い、手紙も書いており、本人の執筆ではないかもしれないが報告を 1 篇海軍々令部に送っているのである。

そうした状況下、11 日に届いた中西正樹死去の知らせは宗方にとっては大きな打撃となったと思われる。明治 21 年頃に漢口楽善堂の活動で出会って以来ずっと交流があり、東亜同文会の結成にも同じく参加し、手紙のやり取りの他には主に上海で顔を合わせることが多かった「三十余年患難の友」(1 月 11 日の日記)である。中西を悼む詩を詠んだのは翌 12 日のことで、その後も 15 日までは日記を書いてそこで書き続ける力が尽きたということになる。

東亜同文書院に学んでその監督をしていた宗方の教えを受け、卒業後一旦北京で『順天時報』の編集に関わった後に上海に戻って宗方が主宰する中国研究所(この研究所の詳細は不明)に明治 44 年に参加してからはずっと宗方のそばで活動したと言い、実際に宗方の日記にも繰り返し登場する波多博によると、日本人医師の医院に入院して、2 月 3 日にそこで亡くなった、享年 60 歳、死因は腎盂炎で、危篤に陥った宗方に確認してから東京に住む夫人を呼び寄せた(波多博「宗方先生を語る」、神谷正男編『宗方小太郎文書』所収、原書房、昭和 50 年)。また、『上海日日新聞』2 月 7 日号によると、1 月 13 日から篠崎医院に入院した、夫人は 28 日に上海に着いて看護を尽したとのこと。2 月 5 日付けで従五位勲三等瑞宝章が授与され、10 日に本圀(国)寺で営まれた。

ここで、大正 12 年 1 月、亡くなる直前に海軍軍令部あてに送った報告 1 篇を、前年と同じ要領で拾い出す。

1月15日、第628号「両広政局の変動」(『文書』の日付は12日とあり、宗方は12日にはまとめた報告を15日になってから海軍あてに送ったと推量される)。

大正十二年

正月元日 晴。早起礼拝。九時波多、八田と同車船津、野平両宅に至り賀正、十時領事館に聖影を拝し、佐原、東方社に小憩、正午倶楽部の名刺交換会に出席す。五時税関埠頭に至り上船、三井一行と会し廬家湾に出帆せんとす。

起坐東方欲曉天、三元佳氣遶窓前、鬢毛添白君休怪、客路春風四十年。

夜十一時魯家滙着。咳甚不能眠。

正月二日 寒気凜烈。上陸一小時船に帰て休養す。夜九時上海に帰着。

正月三日 晴。午後中川、佐原、辻を訪ふ。寝後咳甚安眠を得ず。

正月四日 晴。前秋田に至り受診。副島、波多来訪。

正月五日 晴。荻野芳蔵来訪。

正月六日 晴。心身頗る疲憊を覚ふ。晚通信社の新年宴有り、病を以て辞す。

正月七日 晴。星期日。終日静養。午前佐々布来訪、留て中食を共にす。井手友喜、波多博来訪。

正月八日 晴。疲労甚し。午後船津と約有り、赴く能はず。西本、津田来訪。晚波多、金子来問。秋田氏来診。

正月九日 晴。便秘に苦む。午後服薬。積滞排出稍や清快を覚ふ。海軍に発信す。午後小林司令官、梅田安宅艦長来訪。神崎正助の信至る。船津領事明朝帰国に付き一書を致し別を送る。横山、秋田、波多来訪。波多より蜜柑、菓子等を贈る。

正月十日 晴。井手来訪。午後佐々布に托し金五百員を東京宅に送る。石田来訪。西本来訪。沈子培の訃至る。西本に托し奠儀拾元を贈る。櫻井来訪、鶏卵糕一箱を贈る。佐々布来訪、留て晩餐を共にす。波多夫妻来訪。

正月十一日 晴。鄭垂来訪。其父蘇戡の詩稿を贈る。中西正樹別府客舎にて昨日逝去の電報に接す。中西余と莫逆たり。三十余年患難の友たり。一朝にして世を去る。哀悼の情に禁へず。電して之を弔す。午後休息中姚文藻来訪せりと云ふ。寝後呼吸逼迫不成眠、苦甚。

正月十二日 晴。秋田、波多に致書。前波多、西山、津田中佐、寺島大佐来訪。午後山成、井手来訪。中西正樹別府よりの信片至る。蓋し没前六日の発する所。之を本人の絶筆とす。中西を哭する古風一篇を賦す。秋田来診。夜横山、石田来訪。

正月十三日 晴。田鍋の電至り中西の死を報ず。田鍋に致書す。船津辰一郎の母堂逝去に付き弔詞、奠儀を送る。波多、智識、堀内干城、津田中佐、金子等前後来訪。本日検尿の結果、糖、卵白を多量に含有せるを知る。

正月十四日 晴。波多、石田、辻来訪。

正月十五日 陰。海軍に報告を発し、八角中佐、留守宅、河口、菅村に致書す。